

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 4月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	2274200662
法人名	株式会社 富士見プロジェクト
事業所名	グループホーム 小芝の家
所在地 (電話番号)	静岡県静岡市清水区小芝町 2-13 054-371-5655
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年2月13日

【情報提供票より】(平成20年01月28日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年04月01日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 10人, 非常勤 5人, 常勤換算 14人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	13,200 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(90,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	170 円	昼食 280 円
	夕食	250 円	おやつ 60 円
	または1日当たり 760 円		

(4)利用者の概要(平成20年01月28日)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	8 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 75 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団健寿会・山の上病院・小高整形外科・小高歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

病院の系列のホームであり、医療面でのサポート体制もしっかりしている。法人代表・管理者・職員は、グループホームの意義をよく理解し、より良いホーム作りには日夜努力している。ホームは清水駅から徒歩で10分くらいの所に位置し、周りには商店や住宅があり、清水銀座や小芝神社・学校も近く、地域密着型に相応しい。家族アンケートでは、職員の対応が親切で、親身になって介護してくれており、ここに入れてよかったという感謝の声が多い。利用者のADL変化への対応を工夫し、更に利用者本位のホーム作りを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の指摘項目に対しては、管理者・職員共重く受け止めて話し合い、全て改善されていた。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価・外部評価の意義をよく理解し、今回の自己評価票の作成も職員全員で取り組んでくれた。しかし、1Fと2Fの評価票が一緒にまとめられていた。利用者一人一人に個性があるように、ユニットの違いによる特性を浮き彫りにして欲しかった。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を2~3ヶ月に1回着実に実施している。参加者から貴重な意見が出され、ホームの運営に活かしている。参加者のホームに対する理解も深まってきており、「何でも言ってくれ、協力しよう」という雰囲気になっている。清水区長も見学にこられ、地域密着型の歩を歩みだしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情・相談窓口が重要事項説明書に明示され、家族からも気軽な相談も多く、それらをホームの運営に活かしている。利用者一人ひとりの介護記録のサマリーから「ホームにおける一ヶ月の生活の報告」を作成し、状況について毎月家族に報告し、家族からも喜ばれている。また、その中でご意見やご要望を気楽にお寄せするよう呼びかけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の行事や町内会の防災訓練・運動会・敬老会等に参加している。ボランティアや体験学習の受入、親切な牧師の居る教会を訪れるなど、地域の人達との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念「安全で 安楽で ゆったりした 楽しい生活」があり、グループホーム「小芝の家憲章10項目」が定められており、地域で共に暮らし続ける支援が謳われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンスや申し送り時に理念について話し合い、理念を共有し、日々その実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、町内の防災訓練・運動会・敬老会等に参加し、親切的な牧師の居る教会を訪れるなど、地域の人達との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義をよく理解し、昨年の指摘項目に対してもその改善に取り組んできた。今回の自己評価票の作成も職員全員で取り組んできた。しかし、1Fと2Fの評価票が一緒にまとめられていた。	○	利用者一人ひとりの特性に合わせた介護が行われるように、1Fと2FユニットにおけるADLの低下の状況や外出支援等、ユニットの特性に合わせた介護が必要だと思われる。アウトカム項目からもその相違を見出し、それに見合った対応を検討願いたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2～3ヶ月に1回着実に開催されており、自治会長や民生委員・参加者から貴重な意見が出され、ホームの運営に活かしている。参加者のホームに対する理解も深まってきており、「何でも言ってくれ、協力しよう」という雰囲気になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	最初は民生委員も教えてくれなかったが、自治会長さんと一緒に行って解決した。清水区の区長さんも見学に来てくれ、共にサービスの質向上に努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者一人ひとりの介護記録のサマリーから「ホームにおける一ヶ月の生活の報告」を作成し、状況について毎月家族に報告し、家族からも喜ばれている。また、その中でご意見やご要望を気楽にお寄せするよう呼びかけている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口が明示され、何時でも受け入れ易い体制にある。家族からも気軽な相談も多く、それらをホームの運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在職員の異動は殆ど無く、利用者は馴染みの管理者や職員の支援を受けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人に対しては、ベテランがOJTで指導している。院内研修はカンファレンスの折を利用し、順番を決めて実施している。外部研修にも参加し、伝達教育を行っている。レクリーダー研修には自主的に参加し、食事前の風船突きに活かしている職員もいた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人の別のホームとの交流はあるが、地域の同業者とのネットワークはできていない。	○	益々地域密着型のホームを築くために、管理者や職員が気楽に交流し、相互にサービス向上に取り組めるような場作りへの働きかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に本人と家族に来てもらい、その話を良く聞き、どうしたら馴染みながら生活できるかを考えながら、一緒に行動している。以前にいる利用者とも、仲良く行動している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩から学ぶ姿勢を忘れず、信頼関係をつくり、カルタや歌など歌い、仲良く元気な活動をしている。日曜日には管理者、自ら大極拳を教えていて、和やかなムードづくりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりについて、アセスメントや日常の観察の中から思いや意向を把握し、絶えず職員間で話し合い、利用者にとって一番良いか検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常生活を把握し、本人や家族、職員等の話を良く聞き、課題を明らかにしてケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは定期的に見直すと共に、状況変化が生じた場合は直ちにカンファレンスを行い、現状に即したプランに変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者自らの提携病院での看護経験を生かし、医療面でも柔軟な対応をしている。自主的に取ったレクレーターは、その資格を利用者のADL低下防止に生かしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続に付いては、本人や家族の希望をとりいれて連携を保ち、提携医には1週間に1回診察してもらい、適切な医療支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化やターミナルケアについての指針を定め、家族の同意を得ている。家族と連絡を取り合い、一緒に対応することを謳っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報やプライバシーについては、利用目的の通知・同意書・問合せへの対応方法・写真掲載の範囲の限定等、組織ぐるみで取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション等には、無理なく自由に参加してもらい、その人の思いや希望に合わせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度や片付け等は、できる人には手伝ってもらっている。食事前にはレクリエーターによるリードで風船突き体操を行い、食欲を促している。献立作成やカロリー計算については、山の上病院の栄養士が行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については、希望を基に公平に順番を決め、気に入った仲間や職員との入浴を楽しみにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時のアセスメントや日常の観察から、趣味や特技を生かし、リーダーになる人にはなってもらい、みんなで楽しんでもらうよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に行ける人には毎日、行けない人は、家族が来たとき一緒に連れて行ってもらっている。買い物にもそれとなくついていくが、外出支援は十分とはいえない。	○	利用者のADLの低下もあり、進んで外出を希望する人が少なくなってきたようであるが、家族の希望もあり、少しでも戸外の空気を吸う機会を多くするよう、検討願いたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は道路に直面しているが、利用者の行動パターンを把握している職員の見守りにより、昼間は玄関を開け放し、夜間は施錠している。居室には施錠設備を設けていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回実施し、職員は常時、避難誘導の体得に努め、非常時には地域の方々の協力もお願いしている。玄関にはヘルメットも常備され、ストーブも電気式とするなど、災害防衛対策も講じている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により、栄養バランスの良い献立が提供されている。水分は、日に3度の食事と2回のおやつ時に適量補給され、同席の職員が個々の状況に応じて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は明るくよく整理され、清潔で雑音も無く、居心地もよさそうである。皆で作った作品や季節のもの(雛人形・花)も飾り付けられていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室には、それぞれの家族と相談された家具、備品が持ち込まれ、使い慣れ、馴染み深いものにかこまれていた。入居者も居心地がよさそうで、明るい感じだった。		